

# 『余地』

～相談業務を楽しむ方法8～

## <このままではアカン>

杉江 太朗

### ～夜間放置アカン～

児童相談所には様々な相談が寄せられるが、その中に『夜間放置』という相談がある。

相談といっても、当事者が相談をしてくるわけではなく、関係機関や、近隣の方が、「あの家・・・夜、子どもだけになっているみたいで」「登校してきた子どもが、夜お母さんがいないと言っています」というように間接的に情報が入ってくるものがほとんどである。

夜間放置とは、「夜の間、子どもだけで生活をさせている状況」のことを指す。ここで問題になるのが、何歳なら許されるのかということだが、その部分については、明確な定義がなく、あくまでも対象となる子どもにとって心配なことがあるかどうか判断の基準になると私は考える。

### ～なんでアカンのか～

では、夜間放置にはどのような心配があるのだろうか。

子どもの年齢によっても何を心配しなければいけないのかということは変わっ

てくると思う。ただし子どもの年齢に関わらず、大人が不在の中でどんなことが起こる可能性があるのか、子どもだけではどのようなことに対応できないのかを前提に考える必要がある。

例えば、火事や地震になった際、子どもだけで適切な対応が出来るのだろうか。兄弟がいたとして、誰かが高熱を出した場合に子どもだけで適切な対応できるのだろうか。大人がいない状況下で、子どもが目覚ましてしまい、大人を探しに外に出てしまうなんてことはないだろうか。マンションから落ちたなんて話も聞いたこともあるはずである。他にも多くの「可能性」は考えられるだろう。

その一つ一つが起こる可能性は、低いかも知れないが、大人がいないが為に、子どもが事故に巻き込まれたり、死亡、怪我に繋がったりする可能性を少しでも排除し、さらにその責任を子どもに押し付けないために、あの時に大人がいたら助けられたと後悔しなくて良いように夜間放置は見過ごすことが出来ないのである。

## ～カネがねえし、寂しいんやで～

関わっていく中が、結果として夜間放置となってしまう背景には貧困や孤立などが見え隠れしている。

夜間放置の改善を求めらる中で、大きく2パターンの夜間放置があることがわかってくる。夜間放置として相談の入る家庭の多くが、ひとり親家庭、特にその中でも母子家庭という印象がある。当然、母子家庭＝夜間放置というわけではない。そのことは理解してほしい。そしてその理由、つまり、夜に子どもを置いて家を離れてしまう理由は、①仕事のため ②パートナーのため という結果であることが多いのではないだろうか。

### ① 仕事のため

当然、人は『お金』がなくては生きていけません。家族生活を維持するためには、ある程度の『お金』が必要となります。

ひとり親家庭には、児童扶養手当という手当が支給されますが、それだけで十分に生活できるかと言えばそうではありません。さらに母子家庭で祖父母の協力が得られない場合、1人で保育園の送迎や、病気の子どもの看病をしなければいけません。

そのような条件下では、日中に満身に働くことが出来なくなる可能性があります。当然収入に影響しま

す。

日中に働けない + 低収入という状況での苦肉の策が夜間就労、つまりは、夜間放置に繋がっているのではないのでしょうか。そのことは、日中よりも夜間の方が「時給」が高いことも後押しするかも知れません。

日中では時給1000円でも夜間となると1500円、水商売なら2000円以上にもなるかも知れません。同じ時間働いたとしても、その収入の差は歴然です。

そして日中に家にいることで、家事などをその時間帯にすることも出来るかもしれません。

日中は家事や養育、夜間は就労、これだけ聞くととても効率的な方法に見えなくもありません。(認知の歪み)

### ② パートナーのため

母子家庭の親でも恋愛はします。しかし、日中にそのような時間が確保できるでしょうか。日中は仕事に子育て・・・たまには子どもを預けて誰かとデートをなんて考えたとしても、預ける先がなければ、その時間を確保することは出来ません。そのようなことを考えると、子どもが寝た時間に・・・なんてなるかも知れません。

仕事のためだとしても、パートナーのためだとしても、そこに共通するのは、『お金』の為に働かなければいけないことと、子どもを1人で見なければいけない状況があるということである。誰かに子育てをお願いできるのであれば、夜間放置にはならない。冒頭の貧困と孤立に繋がるのはこの部分である。

### ～うまくいかねえ～

理由は、どうであれ、例えば、児童相談所に夜間放置の疑いで連絡が入った場合、どのように対応をするのだろうか。これは、私の経験によるもので、全ての児童相談所が同じように対応しているかどうかはわからない。またあくまでも一例であり、全てがその対応でないことも書き加えておく。

まずはその家庭の調査を行う。夜間放置を疑うこととなった情報の精査なども必要である。その上で、夜間放置の疑いが高いと判断された場合どのように対応をするのか……。簡単である。突撃訪問を行い、夜間放置の実態を確認しに行くのである。

体制としては、1人で行くことはできない。もし、本当に夜間放置になっている場合、子どもの保護となると、複数の人員が必要となる。さらにもし本当に子どもが保護になった際に、誰もいない家をどうするか……。なんてことも考えな

ければいけない。空いたままにしておいて、もし泥棒など入ってしまうと、後でトラブルになってしまうかもしれない。

当然、チャイムを押しても子どもが出てきてもらえるかどうかはわからない。夜間放置をしていても、子どもに対して、「チャイムが鳴っても出たらアカン」「知らない人は返事したらアカン」と言い聞かせている親もいる。これはこれで、教育が行き届いているとも言えるのだが。

実態を把握するために、その家を見張ったり、疑いが晴れない場合などは、また別日に訪問したりすることもある。

子どもの安全の為とは言うものの、時間も人も費やす必要があり、さらに、夜間放置という実態を確認したとしても、その後の対応としては、その状況を改善してもらうように考えてもらうしか方法がない。

そうしたやり取りをしたとしても、夜間放置にならざるを得ない経済的な状況があれば、早急な行動変容については難しいだろう。指導だけではそもそもの問題を解決することはできない。そのため、表面的な受け入れのみに終わってしまうこともある。その場では、「祖母に頼みます」「これからはしません」という反応があったとしても、結果的に夜間放置が続いたり、さらには子どもに家のことを外で話さないようにと口止めが強化されてしまったりということもあるかもしれない。題目の通り、双方にとって「うま

くいかねえ」ことが多いのが現実である。

### ～私の中の妄想～

「夜間放置の疑い→調査→指導」という手順だけを踏むと、お互いにとって、徒労に終わることが多い。根本的な問題が解決しない以上、『夜間放置』という結果が変わることはない。では、どうすれば良いのだろうか。

ここからは、現実的な話ではないが、一方で、枠組みさえ整えば、現実的に出来るのではないかと私が勝手に考えているという話である。つまりはフィクションなので、あしからず。

さてその方法だが、答えは簡単、夜間放置されている子どもが生活できる専用の施設＝託児所を作るのである。何を馬鹿なことをお思いかも知れませんね。でもこれは、頭の中では、具体的に構想を練り続けている、私の中の妄想である。

実際に夜間保育所などは整備されているかも知れない。しかし、利用料も高く、何のために働いているのかわからなくなることもあるのではないだろうか。

保育所の運営にも『お金』が必要である。仮に、夜間放置専用の託児所を作るとして、その『お金』をどこから捻出するのか。

まず一カ所目は、公金である。つまり、税金。現状の夜間放置に対する対応だけ取ってみても、時間と人がかなり必要となることは先ほど書いた通りである。つ

まり、かなりの人件費がかかっている。多額の費用が掛かっているからと言って、改善に結びついているのかと言えばそうではないかも知れない。いわゆる費用対効果は悪いのである。その分の費用を運営費に充てることができれば、夜間放置を減らすことができるのではないだろうか。

そして、もう二カ所目のお金の捻出先は、夜間放置をする親を雇う企業である。雇用主にとっても雇用者が夜間放置をしているという状況については、コンプライアンスに反するのではないだろうか。また職員の確保もしなければいけない。ならば、企業もその費用を出し合うべきである。福利厚生として、夜間放置専用の託児所があれば、雇用者を増やすことに繋がるかもしれない。

そして肝心の利用料ですが、当然、これは、給与からの天引きにする。そうすることで滞納をかなり減らすことができるだろう。

イメージが沸き難いかも知れないのでもう少し具体的に書くことにする。

どの地域にもいわゆる「風俗街」と呼ばれる商業地域があるはずである。その中に、半官半民の託児所を作るのである。託児所の建物は、風俗街の閉店した店舗を改装する。布団やアメニティーなどの生活用品も集めやすいだろう。運営は、その風俗街のある行政区と、風俗街の加盟店舗から捻出をする。その行政区にと

っては、夜間放置（＝虐待）を減らすことができるというメリットがあり、夜間放置の対応における手間を減らすことに繋がる。それは、コストの削減にも繋がるだろう。風俗街についても、雇用を作り出すというメリットがある。そうすると収益を増やすことができる。さらに、子どもについては、夜間に子どもだけで過ごすという状況から脱することができるのである。

### ～このままではアカン～

というのは、何度も言いますが、私の頭の中にある妄想であり、夜間放置を無くすための方策でもある。

何が言いたいのかというと、『虐待』という言葉が、様々な形で使われているが、あくまでも『虐待』というのは、その家族にとっての『結果』であり、その家族の『状態』を指す言葉ではないということである。

夜間放置の問題は、正直、『お金』さえあれば、解決できる問題だと思う。夜間放置をせざるを得ない状況を改善すれば良いだけなので。それが出来ないから、結果として夜間放置に繋がるのである。

虐待対応も同様です。あくまでも結果であるからこそ、その部分の変容は難しく、その結果に至った経緯や経過を知り、そうならざるを得ない枠組を変容させなければならぬと私は考える。またその枠組は、家族や個人の努力だけで変えら

れるものではなく、社会もその歯車として機能しているのである。虐待という結果に至るということは、今ある社会の仕組みそのものが上手く機能していないということに早く気付かなければいけない。

結果のみを扱うのではなく、その結果に至った枠組やシステムの変容が虐待対応に求められるとってはいるものの、それ以上に結果のみに執着する報道が過熱している現状もある。虐待を扱うのではなく、子どもや、子どもを通して見える社会を扱えるような仕組みを児童相談所の中に構築していきたいと常に考えている。